

琉球大学学術リポジトリ

インドネシア西ジャワにおけるマレーヒヨケザルCy nocephalus variegatusのねぐら行動と分布

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊澤, 雅子, 馬場, 稔, 中本, 敦, 金城, 和三, Boeadi, 土肥, 昭夫, Izawa, Masako, Nakamoto, Atsushi, Boeadi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/849

PE-20 インドネシア西ジャワにおけるマレーヒヨケザル *Cynocephalus variegatus* のねぐら行動と分布

伊澤雅子¹⁾・馬場 稔²⁾・中本 敦¹⁾・金城和三³⁾・Boeadi⁴⁾・土肥昭夫⁵⁾

¹⁾ 琉球大学理学部 ²⁾ 北九州市立自然史・歴史博物館 ³⁾ 沖縄国際大学法学部

⁴⁾ Museum Zoologi Bogor, Puslitbang Biologi-LIPI ⁵⁾ 長崎大学環境学部

ヒヨケザル目はマレーヒヨケザル *Cynocephalus variegates* とフィリピンヒヨケザル *C. volans* の2種のみであり、前者がインドネシアに分布している。マレーヒヨケザルはインドネシアで希少種として保護されているにも関わらず、これまでその分布や生態についてはわずかな情報しか得られていない。我々は、1999年より西ジャワのパンデグランのココヤシ農園において、本種の行動圏とねぐら利用に関する調査を行なっている。ヤシ林内には *Ceiba pentandra*, *Durio zibethinus*, *Pithecolobium jiringa*, *Parkia speciosa* などの他種の背の高い樹木が点在している。ヒヨケザルはヤシの幹にしがみついた姿勢で休息しているか、ヤシの葉に隠れて休息していた（観察されたねぐらの78~98%、n=34~142）。調査地のヒヨケザルの生態は人間活動と密接な関係があり、多くの部分を依存していた。彼らの生活に必要な資源、昼間のねぐら場所と餌、の大半は住民が植えた農作物や有用植物であった。また、ジャワ島の1/3のエリアにおいて本種の詳細な分布調査を行なった。昼間、ココヤシ林でヒヨケザルの有無を記録した。地元住民からの聞き取り調査も行なった。調査した50ヶ所でのうち10ヶ所でヒヨケザルが確認された。西ジャワにおけるマレーヒヨケザルの分布は Ujung Kulon 国立公園近くの海岸域から本研究の調査地であるパンデグランまでの地域に限られていた。また、Pangandaran 国立公園では孤立した小個体群が確認され、Gunung Halimun 国立公園でも生息の報告がある。西ジャワの他の地域の大半は連続した高い樹林帯がなく、ヒヨケザルの生息地としては不適當であると考えられる。